

## 令和5年度 授業改善推進プラン 国語科

### ①「大田区学習効果測定」結果の分析と課題（昨年度の改善策の結果分析も含む）

#### ※1、2、3年生はワークテスト及び授業の様子からの分析

1年	<p>【知識・技能】 【思考・判断・表現】</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p>	<p>促音、拗音の定着が不十分。ひらがなの書き取りの力に個人差がある。主語、述語を使って文を書く機会が少ないため、正しく助詞を使えない児童がいる。音読はできても、一つ一つの言葉の意味を捉え、正しく読むのは難しい。物語文では、登場人物の気持ちを想像しながら読むことができる児童が多い。</p> <p>すすんで読書をする児童が多い。語彙が少なく、自分の思いや考えが相手に伝わるように話すことが苦手な児童がいる。</p>
2年	<p>【知識・技能】</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p>	<p>漢字の書き取りの力に個人差がある。正しい表記で文章を書くことができない児童がいる。</p> <p>相手の発言を受けて話をつなぐことが苦手な児童がいる。また、文と文とのつながりのある文章を書いたり、内容のまとまりが分かるように書き表したりできる児童は少ない。</p> <p>読書や音読などに積極的に取り組む児童は多いが、すすんで自分の考えを話したり書いたりすることが苦手な児童がいる。</p>
3年	<p>【知識・技能】</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p>	<p>既習の漢字を文章の中で使わず、平仮名に頼ってしまう児童が多い。文章の中で敬体常体を混ぜて書く児童が少なくない。話や文章の中で語句のまとまりを捉えきれず、誤解したまま読み進めてしまう児童がいる。</p> <p>話す場面によって、言葉の抑揚や強弱、間の取り方等を工夫することが難しい児童が多い。文章を読んで理解したことから、感想や考えをもつことは苦手である。</p> <p>読書が好きな児童は多いが、幅広く読書に親しんでいる児童は少ない。報告文の書き方から良さを見付けることが苦手な児童が多い。</p>
4年	<p>【知識・技能】</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p>	<p>漢字の読みや書き、言葉の学習などの定着が不十分である。特に、言葉の学習は区の平均を約9ポイント下回った。中でも、主語述語の関係についての苦手意識が目立っている。学年の担当漢字の学習は、目標値を上回っている。</p> <p>説明文で、段落相互の関係を理解したり、中心の語句や文を見付けたりして要約することが苦手である。</p> <p>目的を意識して伝えたいことを書くことについては、目標値を上回っているが、書く領域の問題の正答率が低かった。その中でも無解答（無記入）児童が約2分の1もいた。</p>
5年	<p>【知識・技能】</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p>	<p>区平均を約1ポイント下回った。漢字の読みや書きの定着については個人差が大きい。また、既習の漢字を活用して文章を書くことや、文の構成（主述・連用修飾語）について理解に課題のある児童がいる。</p> <p>内容の中心を明確にして、自分の考えを書くことに対して苦手意識のある児童が多い。また、指定の長さで文章を書きまとめることに課題のある児童も多かった。</p> <p>漢字を書く問題、書く領域の問題の正答率が低かった。その中でも無解答（無記入）児童が多かった。</p>
6年	<p>【知識・技能】</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p>	<p>目標値及び区平均は上回ったが、説明文を読み取り、自分の考えを広げたりすることに課題がある児童がいる。</p> <p>目標値及び区平均は上回ったが、資料から読み取った事実を書くことに課題がある児童がいる。</p> <p>目標値及び区平均を上回った。互いの立場を明確にしながら計画的に話し合い、考えを広げたり、自分の意見を明確にして書いたりできる児童が多かった。</p>

## ②授業改善策

- 1年
- ・拗音、促音などの言葉やカタカナ、漢字など書く機会を増やし、正しく書く習慣を身に付けさせる。
  - ・体験したこと、経験したことなどの文を書く機会を増やし、書き方のきまりを示して正しい書き方を知ることができるようにする。
  - ・話型を示したり、日直スピーチを継続的に行ったりして、聞いている相手を意識させる話し方を練習させる。
  - ・語や文のまとまりを意識して、繰り返し音読する。言葉の使い方を意識付けて、動作化を取り入れることで言葉に関する新たな気付きを促し、言葉をたくさん知ることができるようにする。
- 2年
- ・漢字の書き取り練習では、漢字の成り立ち方や熟語を学習することで、漢字の使い方を意識させる。
  - ・書いた文章を読み返す習慣を付けさせ、文字や文章の間違いに気付くようにする。
  - ・時間や事柄の順序を表す語、内容のまとまりに着目しながら文章を読んだり書いたりさせるようにする。
  - ・自らの体験や身近なことについて、自分の考えや感想を書く活動を日常的に行う。
  - ・尋ねたり応答したりするなどして、少人数で話し合う活動を行い、すすんで話すことができるようにする。
- 3年
- ・文の中で漢字を使うことを意識するよう、小テストの形式を工夫する。文章を読み取る際、言葉の意味を意識できるよう声掛けを行う。国語辞典を使い、言葉の定着を図る。
  - ・自分の考えをもつために、スモールステップで簡易なものから難易度をあげていくようにする。自分の体験や既習の内容を想起しやすいようにワークシート等を工夫していく。
  - ・資料としての本の活用や国語の授業での並行読書等で、幅広い読書となるようにする。学んだことをアウトプットできるよう、友達同士で確認し合ったり、スピーチで表現したりできるようにする。
- 4年
- ・分からない語句が出てきたときは、国語辞典を使って語句の意味を調べたり自分の言葉で説明させたりする。文章の中で、主語と述語を確認したり中心となる語句や文章を確認したりさせるようにする。
  - ・段落相互の関係に着目させるとともに、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述をもとに捉えさせるようにする。
  - ・文章を書く際は何を、何のために書くのか、相手意識や目的意識をはっきりさせるようにする。文章を書く時間を確保したり、自分の考えを述べる際、理由も書かせたりしていく。
- 5年
- ・資料に何が書かれているかを確認し、どの資料のどの部分について話しているのかを考えられるように指導する。
  - ・目的に応じて文章の要旨を捉えたり、自分の考えを明確にしながら読んだりできるようにする。
  - ・普段から既習の漢字を使うよう意識させ、文章中や熟語としても漢字を書けるように指導する。
- 6年
- ・説明を要約したり、自分の考えをまとめたりするなど、読み取る力や書く力を高めていく。
  - ・相手意識、目的意識を明確にし、構成メモを作り、事実・感想・意見等を区別して文章を書かせていく。
  - ・互いの立場を明確にして話し合いながら考えを広げたり、自分の意見を書いたりする活動を継続して取り組ませていく。